

明治のナイチングール 大関和の ふるさと黒羽と医療

ちか



黒羽周辺景観図(城西図) [当館蔵]



かろうかんへきしょ
何陋館壁書 [当館蔵]



桜井女学校附属看護婦養成所時代の大関和(前列右から2人目) [医療法人知命堂病院提供]

2025年10月8日(水)～
2026年3月1日(日)

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日は開館、祝日の翌日は休館)
年末年始(2025年12月29日㈪～2026年1月3日㈯)
- 観覧料 大人300円(200円)・小中学生100円(50円)
()内は20名様以上団体料金

ちか

明治のナイチングール 大関和のふるさと黒羽と医療

ごあいさつ

幕末維新期の大田原市域からは、江戸幕府で活躍した開明的な黒羽藩主大関増裕をはじめ、学者・教育者・政治家として活躍した三田地山、フランスと日本をつなぎ先駆者(仏学始祖)村上英俊ら多くの偉人が輩出しています。そしてその一人に挙げられるのが、黒羽藩士大関弾右衛門増虎(後に家老)の娘として黒羽田町に生まれ、日本で初めて正規の訓練を受けた看護師(トレインドナース)の一人として活躍した大関和(1858~1932)です。

大関和を主人公のモチーフにしたNHK連続テレビ小説「風、薫る」が令和8年(2026)春から放送されるのに先立ち、大田原市黒羽芭蕉の館では、企画展「明治のナイチングール大関和のふるさと黒羽と医療」を開催します。

展示は、〔1〕大関和の生涯と功績、〔2〕大関和のふるさと黒羽の景観と文化、〔3〕大関和が子供の頃の黒羽、〔4〕江戸時代後期黒羽の医療という4つのコーナーから構成され、84点(その内の33点は初公開)の資料を紹介します。

展示をご覧いただき、日本看護界の先駆者大関和が生まれ育った黒羽の景観や文化的風土、江戸時代後期ないし幕末維新期の黒羽及び医療の一端についてご理解いただければ幸いです。

2025年10月8日

大田原市黒羽芭蕉の館



神農図(小泉斐筆) [当館蔵]



西医略論 [当館蔵]



解剖図・経穴図等(一部) [個人蔵]



黒羽藩家老達書控 [当館蔵]



薬箱 [個人蔵]